



一般社団法人 日本LD学会

# 会 報 第 83 号

Japan Academy of Learning Disabilities

【事務局】 〒108-0074 東京都港区高輪 3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F  
TEL:03-6721-6840 URL:<http://www.jald.or.jp>

## 主な記事

### <特集>

- ・第21回大会報告
- ・心理職の「国家資格化」と学校教育の関わりについて

### <連続講座>

- ・高等教育における発達障害学生の支援

### <お知らせ>

- ・第22回大会について



## 土 曜 教 室

北海道大学

室 橋 春 光

土曜教室は、1980年代後半に、本学会会長の上野一彦先生が東京学芸大学でLDのある子どもたちの学習支援の場として始められ、その後、全国に広まってきました。私はその頃、富山大学に勤務していましたが、1996年に富山に学習障害児・者親の会<ゆうの会>が結成されることになり、そのお手伝いの中で、富大土曜教室を始めることになりました。最初は数人のゼミの学生たちと細々と土曜教室を運営していました。学生一人が多数の子どもを担当するかたちとなり、なかなか子どもの特性に合わせたきめ細かな指導をすることが難しいという悩みがありました。

2000年に私は北海道大学に移り、札幌で既に行われていた土曜教室を引き継ぐかたちで北大土曜教室を始めました。大学院に学習障害を学びに来た教員とともに、WISCをベースとしてIEPの考え方も取り入れつつ、子どもの特性に合わせた学習支援を模索していきました。基礎から臨床まで幅広く対応する学部の土壌の中で、学習支援のミーティングが毎週土曜日、夜遅くまで熱心に行われ、現役学生たちのもつ基礎的思考と、現職教

員たちのもつ実践的思考が相互に浸透しあってきました。子どもたちの学習を支えるということでありながら、実は学生たちと私たちが子どもたちに支えられてもいます。土曜教室が主にボランティアの学生と大学院生たちによって成り立っており、かつ息の長いかわりを目指すため、支援できる子どもの人数は少ないのですが、教育や福祉領域で活躍したいと考える学生たちの質の高い実践的訓練の場になってきているという思いを深くしています。

一人ひとりの特性にあった指導を行うこと、それは教育の理想であり、特別支援教育の目指すところですが、子どもとの丁寧なかかわりから生まれるものだと思います。そのためには、子どもに関わる人たちの養成についても、時間をかけた丁寧なかかわりあいが必要ではないかと感じています。あたりまえのことがあたりまえにできる、ということが難しくなっているように感じます。特別な支援でなくあたりまえになることが、インクルーシブ教育のめざすところであるように思います。